

第2学年1組 国語科学習指導案

1 単元 「徒然草」

2 指導観

- 本単元で扱う『徒然草』は、今から700年前の鎌倉時代末期に、兼好法師によって書かれた随筆である。全244段（序段と243段の本文）から成り、内容は、兼好法師の自然についての感想や住まいについての意見、仏教信仰に関する記事、人間の心についての観察、人間としての生き方についての考えなどが簡潔な文章で書かれている。兼好法師の人間を見つめる「目」の奥深さ、確かさが『徒然草』の味わいを深めており、現代を生きる私たちにとって、自己の体験と重ね合わせたり、生き方の参考にしたりすることができる魅力的かつ価値ある教材といえる。

序段では、「つれづれなるままに」とあるように、この作品がどんな心境や態度で書かれたものかを知ることができよう。「仁和寺にある法師」では、石清水に参った仁和寺の僧が、山の上の本殿を拝まずに、ふもとの神社などで用は済んだと思っただけで帰ったエピソードから、よくわからずに行っていることが誰にでもあること、その危うさを示している。「ある人弓射ることを習ふに」では、自分でも気づかないうちに心に隙が生じること、その道の熟達者は、それを見抜いていることを一般的な戒めとして示している。この二つの段に示されている兼好法師のものの見方や考え方は、生徒が自分の日常生活と結び付けて考えることで、昔の人の考え方が現代にも通じることを実感できるものとなっている。

- 本学級の生徒は、4月標準学力検査の分析結果から、観点別では、「読む能力」のC評価23%「書く能力」のC評価37%と、「読む能力」「書く能力」共に課題があることが明らかになった。学年全体での割合、「読む能力」のC評価22%「書く能力」のC評価28%と比較しても、低位層の割合の多さが顕著であり、本学級においては学力向上に向けた手立てが一層必要である。また、領域別では、「説明的文章」の県標準比99「古典・訳」の県標準比117と、能力に差が見られることから、古典と説明的文章を融合させて読んだり、古典をもとに自分の考えをもたせたりする学習活動を仕組む必要がある。

また、県学力調査の分析結果からも、古典の文章と現代語訳を対応させて内容を捉えることをねらいとした問いに課題があることが明らかになった。県平均を5ポイント上回ったものの期待正答率は17ポイント下回っており、先に述べた学習活動を螺旋的・反復的に行う必要がある。

生徒は1学年で、『竹取物語』を学習している。音読や暗唱を楽しみ、歴史的仮名遣いや現代と意味の異なる古語など、古典の基本的事項の知識を身に付けている。また、人間の宇宙へのあこがれ、美しい女性に対する男性の思い、子どもを大切に思う親心など、現代の私たちの思いと共通する部分があることも学習している。

- 本単元の指導にあたっては、『徒然草』を自分の経験との対比の中で読み、考えを広げたり深めたりすること、文章に表れたものの見方や考え方を自分の生活や生き方に生かすことができるようにすることをねらいとする。そのためには、次の手立てをとる。
 - ・『徒然草』への関心を高めるために、「おはなしのくにクラシック徒然草」(NHK Eテレ)を視聴し、この作品が成立した背景や兼好法師の生涯を視覚的に捉えさせる場を設定する。
 - ・「仁和寺にある法師」「ある人弓射ることを習ふに」の理解を深めるために、補助教材として似たようなテーマをもつ「猫また」「高名の木のぼり」を取り上げ、『こども「徒然草」』(齋藤孝 筑摩書房)を活用しながら考える場を設定する。
 - ・自分の経験と結び付けて考えをまとめることができるようにするために、ステップチャートに内容を簡潔に記述させ、考えの骨格をつくる場を設定する。
 - ・『徒然草』に表れたものの見方や考え方の視点を参考にして、自分の経験や身近な出来事から教訓にできる考えをもつことができるようにするために、「自分版徒然草」を創作する場を設定する。

3 単元の目標

- 現代語訳や語注などを手掛かりに内容や表現の特徴を知り、登場人物の言動や兼好法師の思いを考慮を通して、徒然草に表れたものの見方や考え方を捉えることができる。(3)イ(知識・技能)
- 徒然草を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付けて表出し、他者の考えと対比することで自分の考えを広げたり深めたりすることができる。C読むことオ(思考力、判断力、表現力等)
- 古典を身近なものとして関心をもち、徒然草に表れたものの見方や考え方を、自分の生活や生き方に生かそうとしている。(学びに向かう力、人間性等)

4 単元指導計画（全7時間）

知識及び技能…〔知〕 思考力、判断力、表現力等…〔思〕 学びに向かう力、人間性等…〔学〕

| 次 | 時 | 学習活動・学習内容 | ねらいと具体的な支援 | 評価の観点(方法) |
|-------------------|---|--|---|---|
| 一 | 2 | 1 『徒然草』について知る。 『徒然草』が成立した背景や兼好法師の生涯を捉える。 2 序段を音読する。 ・歴史的仮名遣いに注意して、正しく音読する。 ・現代では使われない言葉の意味を確認する。(「つれづれ」「あやしくこそ」「ものぐるほしけれ」) 3 「友にするに悪きもの七つあり」(117段)を音読する。 ・自分だったら「よき友」はどんなタイプか考える。 | 『徒然草』に関心をもち、「自分版徒然草」を創作するために、兼好法師の思いを自分の経験との対比の中で読み見通しをもつことができるようにする。 ・『徒然草』への関心を高めるために、「おはなしのくにクラシック徒然草」(NHK Eテレ)を視聴し、視覚的に捉えさせる。 ・兼好法師の考え方を楽しむために、「悪き者」の7つのタイプを考える際、「健康な人」など意外なタイプを話題にする。 ・兼好法師の暮らしぶりや考え方に関心を高めるために、「よき友」の3つのタイプについて、自分の考えや経験と対比する場を設定する。 | ・兼好法師の思いを自分の経験との対比の中で読もうとしている。 〔学〕:(ワークシート) |
| 二 | 4 | 1 「仁和寺にある法師」(52段)から、兼好法師が伝えたかったことを読み取る。 ・歴史的仮名遣いに注意して、正しく音読する。 ・段落ごとに読み取る。 ・「猫また」(89段)を読み、「仁和寺にある法師」と共通するおもしろさについて交流する。 | 『徒然草』を自分の経験との対比の中で読み、考えを広げたり深めたりできるようにする。 ・理解を深めるために、仁和寺の法師がどんな失敗をし、その原因が何であったかなど、具体的な問いを投げかける。 ・筆者の論の展開を意識させるために、段落ごとに読み取った内容を、ステップチャートに記述させる。 ・同じような経験がないかについて考え、マンドラマップに書くよう指示する。 | ・「仁和寺にある法師」に表れたものの見方や考え方をすることができる。 〔知〕:(ワークシート) |
| 本時 2 / 4 | | 2 「仁和寺にある法師」に倣って自分の経験と結び付けて考えをまとめる。 ・齋藤孝氏の経験を、「仁和寺にある法師」の論の展開に従ってリライトする。 ・自分の思い込みで失敗した経験を「仁和寺にある法師」の論の展開に従ってまとめる。 | ・自分の経験をまとめる際のモデルにできるように、『こども「徒然草」』(齋藤孝 筑摩書房)から齋藤孝氏の経験がつづられた文章を紹介する。 ・実際にどのようにまとめるかを知るために、齋藤孝氏の文章を使って、ステップチャートにリライトすることを伝える。 ・ステップチャートは「私は、～。」「そのあと、～。」「何事も～。」と書き出しの言葉を指定する。 | ・「仁和寺にある法師」に倣って自分の経験と結び付けて考えをまとめることができる。 〔思〕:(ワークシート) |
| | | 3 「ある人弓射ることを習ふに」(92段)から、兼好法師が伝えたかったことを読み取る。 ・段落ごとに読み取る。 ・「高名の木のぼり」(104段)を読み、「ある人弓射ることを習ふに」との共通点を考える。 4 「ある人弓射ることを習ふに」に倣って自分の経験と結び付けて考えをまとめる。 ・物事を軽んじることで失敗した経験をこれまで学習した章段のいずれかの書きぶりを真似て書く。 | ・理解を深めるために、弓矢の先生はどんなことばを言ったのか、そのことばから兼好法師はどのような考えを述べているかなど、具体的な問いを投げかける。 ・「高名の木のぼり」と「ある人弓射ることを習ふに」との共通点を見出すために、ベン図に整理する場を設定する。 ・『こども「徒然草」』(齋藤孝 筑摩書房)から齋藤孝氏の経験がつづられた文章を紹介する。 ・兼好法師の書きぶりを真似できるように、これまでの学習で用いた資料やワークシートの内容を振り返るよう促す。 ・自分の考えを簡潔に表出できるように、200字～300字で書くように指示する。 | ・「ある人弓射ることを習ふに」に表れたものの見方や考え方をすることができる。 〔知〕:(ワークシート) ・他者の考えと対比することで自分の考えを広げたり深めたりすることができる。 〔思〕:(ワークシート) |
| 三 | 1 | 1 『徒然草』に表れた他の教訓をキャッチフレーズで紹介し、どれかを使って「自分版徒然草」を創作する。 ・創作した「自分版徒然草」を学級の仲間を紹介する。 | 『徒然草』に表れたものの見方や考え方の視点を参考にし、教訓にできる自分の考えをもつことができるようにする。 ・「自分版徒然草」を創作するために、自分の経験や身近な出来事から教訓を考え、文章にまとめる場を設定する。 | ・『徒然草』を、自分の生活や生き方に生かそうとしている。 〔学〕:(ワークシート) |

5 本時 令和元年11月15日(金) 第5校時 2年1組教室において

(1) 本時の指導観

前時までに生徒は、序段や「友にするに悪きもの七つあり」から、自分の経験との対比の中で読むための見通しをもつことができている。また、仁和寺の法師がどんな失敗をし、その原因が何であったかなどについて考えたり、段落ごとに読み取った内容を、ステップチャートに記述することで筆者の論の展開を意識したりして、「仁和寺にある法師」に表れたものの見方や考え方を知ることができている。本時では、「仁和寺にある法師」に倣って自分の経験と結び付けて考えをまとめることができるようにする。そのために、まず、齋藤孝氏の経験を、「仁和寺にある法師」の論の展開に従ってステップチャートを活用してリライトする。次に、自分の思い込みで失敗した経験を「仁和寺にある法師」の論の展開に従ってステップチャートを活用してまとめる。さらに、まとめた内容を交流し、自分の考えと他者の考えを比べることで、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

(2) 本時の主眼

・「仁和寺にある法師」の論の展開を理解し、自分の経験と結び付けて考えをまとめることができる。

(3) 準備

・ワークシート ・『こども「徒然草」』の印刷資料 ・振り返りシート

(4) 展開 (ゴシック…思考ツールの活用場面)

| 段階 | 学習活動・学習内容 | 具体的な支援 | 評価の観点(方法) |
|-------|--|--|--|
| つかむ | <p>1 前時の学習内容を振り返り、本時のめあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">「仁和寺にある法師」と「猫また」に共通するおもしろさはどのようなことでしたか。</div> <p>・ひとりで行動 ・思い込み ・残念な結果 めあて</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">「仁和寺にある法師」を真似て、自分の経験を文章にまとめよう。</div> | <p>○ 本時の学習の見通しをもたせるために、前時の学習で捉えた「仁和寺にある法師」と「猫また」のおもしろさについて3名に発表させる。</p> | |
| さぐる | <p>2 齋藤孝氏の経験を、「仁和寺にある法師」の論の展開に従ってリライトする。</p> <p>(1) 齋藤孝氏の文章からリライトに必要な後半部分を見出す。</p> <p>・前半部分→「仁和寺にある法師」の経験 ・後半部分→齋藤孝氏の経験</p> <p>(2) 齋藤孝氏の文章を3段落構成でリライトする。</p> <p>・1段落→イタリアに行ったこと。 ・2段落→フィレンツェとヴェネツィアに行かなかったことを残念に思っていること。 ・3段落→案内人がいてくれたらよかったと思っていること。</p> | <p>○ 自分の経験をまとめる際のモデルにできるように、『こども「徒然草」』(齋藤孝 筑摩書房)から齋藤孝氏の経験がつづられた文章を紹介する。</p> <p>○ 「仁和寺にある法師」の論の展開を確認するために前時のワークシートを活用させる。</p> <p>○ 実際にどのようにまとめるかを知るために、齋藤孝氏の文章を使って、ステップチャートにリライトすることを伝える。</p> <p>○ 段落を意識して書くことができるように、ステップチャートを用いるとともに、書き出しの言葉を指定する。</p> | <p>・「仁和寺にある法師」に倣って自分の経験と結び付けて考えをまとめることができる。 (思):ワークシート</p> |
| 深める | <p>3 自分の思い込みで失敗した経験を「仁和寺にある法師」の論の展開に従ってまとめる。</p> <p>(1) 3段落構成でまとめる。</p> <p>・ステップチャート=論の展開</p> <p>(2) まとめた内容を交流し、自分の考えと他者の考えを比べる。</p> <p>・グループ→全体</p> <p>4 本時のまとめと振り返りを行う。</p> <p>(1) 本時のまとめを行う。</p> | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0; text-align: center;">私は、～ 。 【経験】</div> <div style="text-align: center; margin: 5px 0;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0; text-align: center;">そのあと、～ 。 【気づき】</div> <div style="text-align: center; margin: 5px 0;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0; text-align: center;">何事も、～ 。 【教訓】</div> | |
| 見つめ直す | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">私は、ダンスの時、どうしてもタイミングを合わせることができずに困っていた。そのあと、ダンスリーダーが「曲のこの音が聞こえたら動くといいよ」と教えてくれた。何事も遠慮しないでコツを尋ねる方がいいと思った。</div> <p>(2) 『思考力・表現力 up のためのスキル表』を活用し、学習の過程でわかったことやわからなかったことを書き、発表する。</p> | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">自己内対話で目指す姿</div> <p>・兼好法師と現代に生きる自分たちを比べると、「分からないことは素直に聞く方がいい」というものの見方や考え方は昔も現代も変わらないと思った。(比較) (共感)</p> <p>○ 自己内対話を促し、考えを広げるために、『思考力・表現力 up のためのスキル表』に記入させ発表させる。</p> | |